

図書紹介

Planted Forests. Uses, Impacts & Sustainability (人工林—利用、インパクト及び持続性)

Julian Evans 著, FAO, CABI, 228 ページ, 2009
ISBN978-92-5-106222, ISBN978-1-84593-564-1

本書はFAOが行ったGlobal Planted Forest Thematic Studyの成果を中心に、人工林の利用、人工林造成の影響や人工林の持続性についてまとめたものである。

本書の巻頭言によると、人工林は最近10年間で面積、インパクトともに急速に大きくなり、2005年時点で世界の陸地の2%（森林域の7%）を占めるに過ぎない人工林が世界の産業木材需要の約2/3を賄う能力があると推定されている。

人工林は、木材、パルプ原料や燃料といった木質資材を提供するだけでなく、炭素を固定したり、荒地を再生したり、地域景観、水源や農耕地の保全に重要な役割を果たしている。世界規模で進んでいる森林劣化を減少させる意味では人工林の役割はますます重要になっているといえる。

本書の構成は、第1章 序論、第2章 植林と人工林の歴史、第3章 人工林の定義に関する疑問、第4章 人工林に関する世界的調査、第5章 人工林からの木材生産：2030年までの将来予測、第6章 人工林の多面的な役割、第7章 政策、機関及び所有形態に関わる課題、第8章 持続的施業と森林管理、第9章 要約と結論で、世界の人工林の歴史を概観することから始まり、現在までの人工林に関わる調査・研究を総括している。

巻末には附録として国別人工林面積の統計表が掲載されており、世界の人工林を概観するには便利な冊子である。

(森貞和仁)

湧き上がる雲の下で

高畑 滋著, 共同文化社, 222 ページ, 2010

本書は四半世紀前のボルネオ島での体験記をベースとし、現在の味付けした熱帯の自然・人文・社会ちゃんこ鍋といった印象である。生活拠点が冷温帯の東北・北海道地域であった筆者が、インドネシア国東カリマンタン州サマリダ市のムラワルマン大学付属熱帯雨林研究所へ、JICA 派遣専門家として1985年から派遣され、赤道直下の町で2年間暮らすこととなった。この間見るもの聞くもの全てに興味を持ち、それをミニ新聞「コーラン・ウータン」とし、2年間で100号、週一回の発行ペースで出された新聞記事が話のベースである。では中身は古いかといえば、決してそうではない。熱帯林保全、希少動物保護、山火事、違法伐採等々現在も未解決のまま残されている諸問題が当時から存在していたことが、本書を読めばわかる。そうした問題に現在の動きや解釈を加えて味付けがなされている。

主な章を紹介すると、・赤道直下は暑くない・どうなる熱帯雨林・ボルネオの歴史から・ライフインサマリダ・開拓移民・湧き上がる雲の下で出会った人々、熱帯雨林の自然保護問題・ボルネオ島旅行記・コラム記事である森の博物誌（動植物紹介）やインドネシア語面白辞典などである。

現代の若者は内向き趣向が強く、国外とくに途上国での仕事を嫌う傾向が強いとされているが、本書は仕事にしろ、奉仕活動にしろ、あるいは旅行にしろ、熱帯途上国を目指すあるいは余儀なく行かされる若者にとって恰好な読み物となるだろう。本書に溢れる「なんでも見てやろう」的精神は、途上国滞在を実りあるものとするだろう。

なお、著者が派遣されたJICA熱帯雨林研究プロジェクトは実に15年間の長きにわたり続き、1999年末に終了した。その間の研究成果は「Rainforest Ecology in East Kalimantan」として、Springer社のEcological Studiesシリーズ140巻として刊行されている（ISSN0070-8356）。熱帯林研究に興味のある方はこちらの図書もお勧めする。

(森 徳典)